愛知教育大学教科教育センター研究報告，第5号，pp.303～311, March, 1981

体育授業における指導と学習の活動パターンの類型に関する研究

愛知教育大学体育教室　永　田　靖　章

A Study on the Types of Teaching and Learning Pattern in the Physical Education Class

by
Yasuaki NAGATA
(Department of Physical Education)

The Purpose of this study is to make clear the types of behavior traits of a teacher and students in physical education class.

The systematic observation was adapted as the main method of this research. The observations were conducted in order to analyse the teaching and learning pattern of physical education class in a middle school. The investigation was covered the time period from May to June, 1978.

The main results obtained were as follows;

1) The main behavior of the teaching process were "Observation" and "Instruction". The main behavior of the learning process were "Physical Exercise", "Recording or Measurement", "Warm-Up or Cooling-Down", "Hearing or Responding" and "Discussion or Support".

2) The behavior patterns of teaching and learning process had five types as follows;

(1) Increase-Type. (2) Decrease-Type. (3) Parallel-Type.

(4) Convex-Type. (5) Concave-Type.

3) The basic behavior patterns of teaching and learning process were changed as follows;

(1) The behavior of teacher were changed from the active behavior to extract behavior.

(2) The behavior of students were changed from the passive behavior to autonomous behavior.

Ⅰ 緒　　言

体育の授業研究や授業分析に関する研究は，従来から数多くなされて今日に至っている。本研究は，これらの研究の1つに位置づけられるものである。

本研究では，特に，体育の授業における指導者と学習者にみられる諸活動を，授業に必要であると考えられる活動因子に分類し，単元全体の授業過程にみられる各活動因子の活動パターンの類型化と，体育の授業過程における基本的な活動パターンの模式図化をすることを試みたものである。その結果は，指導者の活動も学習者の活動もともに5つの活動パターン（増加型・減少型・平行型・凸型・凹型）に類型化することができ，また，授業過程における基本的な活動パターンを模式図化することができた。

Ⅱ 研究の目的

体育の授業は，学習者に運動を学ばせ，教育や体育で目指している方向に導いたり，学習者のもつ心理的条件や生理的条件である主体的条件を変容させようとするものである。そのためには，授業に応じた指導の方法や技術が必要である。この指導の技術の具体的な形をとったものが，授業の過程であるといわれている。[1]授業研究では，この過程に注目することが重要であると考える。

現実の体育の授業には，運動技術中心の授業もあれば，体力つくり中心の授業や放任的な授業，あるいは，意図的な楽しさ中心の授業などのさまざまなものがある。[2]しかし，基本的には，学習者の意志から離された客観的な動きとしての技術構造から設定される授業と，学習者の意志で選ばれ決定された運動課題としての内容設定による授業とに分類することができる。体育の授業は，究極的には後者の授業をめざすことが重要であると考える。

体育の授業研究では，まず，どの単元の授業にも必要な条件としての活動や共通の過程が，どのようなものであるのかを明らかにし，その後によりよい授業を目指した研究をすることが必要であると考える。[3][4]

そこで，本研究では，体育の授業において学習者に運動を学ばせ，学習者の主体性や自律性を育成するためには，指導と学習の過程の望ましいあり方としての，指導者と学習者の活動の基本的な流れの型（活動パターン）が，どうあればよいのかを見出すことをねらいとするものである。つまり，授業が展開されていく過程を，一単位時間を完結した授業としてとらえるのではなく，一つのまとまりとしての単元を単位としてとらえた中での，「はじめ（導入）→なか（展開）→まとめ（整理）」という一連の段階における活動パターンを問題にしようとするものである。

Ⅲ 研究の方法

1．研究の対象は，中学校の小集学習によるバレーボール単元（12単位時間）とした。

2．授業分析は，デジタル式行動記録分析装置（竹井機器製）と，宇土氏のW．F．C．を参

考にして作成した活動因子別授業観察記録用紙とを併用し，全授業の過程を記録して分析をした。

3．指導者と学習者の各活動を授業で必要と考えられる因子に分類し，それを量的に時間（継続的活動[5]）と頻度（単発的活動[6]）でとらえ，それぞれの活動因子の量的な増減や変化について分析・検討をした。

4．指導者の活動は，学級全体・グループ・個人のいずれを対象にしての活動であるのか，学習者の活動は，学級全体・グループ・個人のいずれを単位とした活動であるのかについての区別をして分析・検討をした。

5．指導者の活動は，①記録・測定，②観察，③参加・補助，④暗示・発問，⑤教授・説明・示範，⑥指示・誘導・管理の6因子に分類した。

6．学習者の活動は，①記録・測定，②計画・資料研究，③話し合い・補助・教え合い，④ゲーム・プレイ・発表，⑤技能練習，⑥準備・整理・補強運動，⑦話を聞く・質疑応答，⑧待機・移動・集合・整列，⑨用具の管理・準備・後始末の9因子に分類した。

Ⅳ　研究の結果と考察

1．単元全体における活動量の特徴

指導者と学習者の単元全体における活動量をみたものが，表1と表2である。

表1　指導者の単元における活動量　(%)

活動因子＼種類	継続的活動	単発的活動
記録・測定	0.6	0.7
観察	74.9	5.4
参加・補助	2.1	1.2
暗示・発問	3.1	6.7
教授・説明・示範	15.7	28.6
指示・誘導・管理	3.4	57.4
（全体）	（493.7分）	（406回）

表2　学習者の単元における活動量　(%)

活動因子＼種類	継続的活動	単発的活動
記録・測定	18.7	2.9
計画・資料研究	0.2	
話し合い・補助・教え合い	13.5	0.6
ゲーム・プレイ・発表	15.5	1.0
技能練習	47.8	1.0
準備・整理・補強運動	18.0	0.3
話を聞く・質疑応答	15.5	46.3
待機・移動・集合・整列	11.7	46.0
用具の管理・準備・後始末	6.0	1.9
（全体）	（549.4分）	（311回）

指導者の単元における中心的活動は，継続的活動では観察と教授・説明・示範であり，単発的活動では指示・誘導・管理と教授・説明・示範である。また，学習者の中心的活動は，継続的活動では技能練習，記録・測定，準備・整理・補強運動，話を聞く，質疑応答，話し合い・補助・教え合いと多くの活動因子にみられ，単発的活動では待機・移動・集合・整列と話を聞く・質疑応答である。

その他の活動については，指導者も学習者もともに，活動量という視点からみれば周辺的活動であるといえる。

2．単元における働きかける対象と活動する単位の特徴

指導者の働きかける対象が，単元全体の中で学級全体・グループ・個人のいずれであるのか，また，学習者の活動する単位が，学級全体・グループ・個人のいずれであるのかを活動量でとらえてみたものが，表3と表4である。

表3　単元における指導者の働きかける対象の活動量

(%)

種類 / 対象 / 活動因子	継続的活動			単発的活動		
	学級	グループ	個人	学級	グループ	個人
記録・測定			0.6	0.5		0.2
観察	8.8	66.1		3.0	2.5	
参加・補助		2.1		0.7	0.5	
暗示・発問	1.2	1.9		2.0	3.7	1.0
教授・説明・示範	7.9	7.8		5.7	12.6	10.3
指示・誘導・管理	1.8	1.2	0.4	31.5	17.6	8.6
全体	19.9	79.1	1.0	43.3	36.5	20.2

表4　単元における学習者の活動する単位の活動量

(%)

種類 / 段階 / 活動因子	継続的活動			単発的活動		
	学級	グループ	個人	学級	グループ	個人
記録・測定	1.3	16.9	0.6	0.3	2.6	
計画・資料研究		0.2				
話し合い・補助・教え合い		13.5		0.3	0.3	
ゲーム・プレイ・発表		15.5				1.0
技能練習	2.0	44.9	0.9		1.0	
準備・整理・補強運動	4.9	13.2		0.3		
話を聞く・質疑応答	8.6	6.9		9.3	21.9	15.1
待機・移動・集合・整列	4.2	7.5		22.2	22.8	1.0
用具の管理・準備・後始末		5.7	0.4		1.3	0.6
全体	20.9	124.4	1.9	32.5	49.8	17.7

指導者の活動は，継続的活動ではほとんどがグループを対象にしており，個人を対象にした活動は極くわずかである。単発的活動では，学級全体を対象にする活動が最も多いが，個人を対象にした活動もかなりあり，学級全体・グループ・個人とすべてを対象にした活動であるといえる。

学習者の活動は，継続的活動では指導者と同じように，グループを単位とした活動が中心で，技能練習をしながら話し合い・補助・教え合いをするなどの平行した活動が多くみられ，学級全体を単位にした活動はわずかで，個人を単位とした活動は極くわずかである。単発的活動も，グループを単位とした活動が中心であるが，学級全体や個人を単位とした活動であるといえる。

このことから，体育の授業は，学級全体・グループ・個人の三つを対象にしたり，単位とした活動が必要であるが，特に，グループを対象にしたり，単位とした活動を重視しな

ければならないといえる。

3．指導段階と学習段階にみられる活動量の変化

単元における「はじめ（導入）」・「なか（展開）」・「まとめ（整理）」という指導段階における活動量とその増減や変化についてみたものが，表5と表6である。

表5　指導段階にみられる活動量の変化

（%）

活動因子＼段階＼種類	継続的活動			単発的活動		
	はじめ	なか	まとめ	はじめ	なか	まとめ
記録・測定		0.7			1.0	
観察	74.4	74.4	84.9	7.4	5.5	2.3
参加・補助		2.5			1.0	4.5
暗示・発問		3.7		5.6	6.8	6.8
教授・説明・示範	18.5	15.2	18.1	13.6	29.9	38.6
指示・誘導・管理	7.1	3.5		74.1	55.8	47.8
（全体）	（36.7分）	（414.0分）	（43.0分）	（54回）	（308回）	（44回）

表6　学習段階にみられる活動量の変化

（%）

活動因子＼段階＼種類	継続的活動			単発的活動		
	はじめ	なか	まとめ	はじめ	なか	まとめ
記録・測定		18.4	35.8		3.5	
計画・資料研究	3.1					
話し合い・補助・教え合い	14.0	14.4	5.6	4.0	0.4	
ゲーム・プレイ・発表		14.6	35.8	4.0	0.8	
技能練習	18.0	49.9	50.1		0.8	3.1
準備・整理・補強運動	44.1	16.4	14.6		0.4	
話を聞く・質疑応答	21.0	15.1	15.3	28.0	46.5	59.4
待機・移動・集合・整列		13.2	5.8	60.0	46.5	31.3
用具の管理・準備・後始末		7.1		4.0	1.2	6.3
（全体）	（36.6分）	（464.0分）	（48.8分）	（25回）	（254回）	（32回）

指導段階についても，学習段階についてもともに，「はじめ（導入）」・「なか（展開）」・「まとめ（整理）」のすべての段階にみられる活動と，特定の段階にしかみられない活動とがある。これらの傾向や特徴をまとめてみると次の5つのタイプに類型化することができる。

(1)　単元が進行するに伴って活動量が増加する増加型

(2)　単元が進行するに伴って活動量が減少する減少型

(3)　単元が進行しても活動量に変化が少ない平行型

(4)　単元の「なか（展開）」の段階で活動量が増加する凸型

(5)　単元の「なか（展開）」の段階で活動量が減少する凹型

この5つのタイプに，指導者と学習者の継続的活動と単発的活動を区別して，表5と表

6をまとめなおしたものが表7である。

表7　指導と学習の過程における活動パターンの類型

区分 / 類型 種類	指導者		学習者	
	継続的活動	単発的活動	継続的活動	単発的活動
増加型	•観察	•参加・補助 •暗示・発問 •教授・説明・示範	•記録・測定 •技能練習 •ゲーム・プレイ・発表	•技能練習 •話をきく・質疑応答
減少型	•指示・誘導・管理	•観察 •指示・誘導・管理	•計画・資料研究 •話し合い・補助・教え合い •準備・整理・補強運動 •話をきく・質疑応答	•話し合い・補助・教え合い •ゲーム・プレイ・発表 •待機・移動・集合・整列
平行型	•記録・測定			•準備・整理・補強運動
凸型	•参加・補助 •暗示・発問	•記録・測定	•待機・移動・集合・整列 •用具の管理・準備・後始末	•記録・測定
凹型	•教授・説明・示範			•用具の管理・準備・後始末

指導と学習の過程における活動パターンの代表的なものを挙げてみると，指導者は，単元の進行に伴って観察活動が増加し，指示・誘導・管理の活動が減少し，「なか（展開）」の段階で増加するのは，記録・測定と参加・補助や暗示・発問の活動であり，「なか（展開）」の段階で減少するのは，教授・説明・示範の活動である。また，学習者は，単元の進行に伴って記録・測定と技能練習やゲーム・プレイ・発表などの活動が増加し，計画・資料研究や話を聞く・質疑応答などの活動が減少している。

これらの傾向は，指導と学習の段階が進むに伴なう一つの原則的な法則性であるといえよう。

表8　指導段階における働きかける対象とその活動量

（%）

活動内容	対象 \ 種類 / 段階	継続的活動 はじめ	継続的活動 なか	継続的活動 まとめ	単発的活動 はじめ	単発的活動 なか	単発的活動 まとめ
記録・測定	学級					0.6	
	グループ						
	個人		0.7			0.3	
観察	学級	43.9	6.2	5.7	7.4	2.6	
	グループ	30.5	67.9	79.3		2.9	2.3
	個人						
参加・補助	学級						
	グループ		2.4			0.6	0.3
	個人					0.3	0.3
暗示・発問	学級		1.2		5.6	1.6	2.3
	グループ		1.9			4.2	4.5
	個人					1.0	
教授・説明・示範	学級	18.0	6.4	14.1	11.1	3.9	11.4
	グループ		8.9	4.1	1.9	14.0	15.9
	個人					12.0	11.4
指示・誘導・管理	学級	7.1	1.5		72.2	25.6	22.7
	グループ		1.4		1.9	19.8	18.2
	個人		0.5			10.4	6.8

表9　学習段階における活動する単位とその活動量

(%)

活動因子	種類 / 段階 / 単位	継続的活動 はじめ	継続的活動 なか	継続的活動 まとめ	単発的活動 はじめ	単発的活動 なか	単発的活動 まとめ
記録・測定	学級		1.6				
	グループ		16.2	35.8		3.5	
	個人		0.7				
計画・資料研究	学級						
	グループ	3.1					
	個人						
話し合い・補助・教え合い	学級				4.0		
	グループ	14.0	14.3	5.6		0.4	
	個人						
ゲーム・プレイ・発表	学級						
	グループ		14.7	35.8			
	個人				4.0	0.8	
技能練習	学級		2.3				
	グループ	18.0	46.6	50.0		0.8	3.1
	個人		1.1				
準備・整理・補強運動	学級	44.0	1.9	3.9		0.4	
	グループ		14.5	10.7			
	個人						
話を聞く・質疑応答	学級	21.0	7.3	11.5	24.0	7.5	12.5
	グループ		8.8	3 .8	4.0	22.8	28.1
	個人					16.1	18.8
待機・移動・集合・整列	学級		5.0		40.0	20.5	21.9
	グループ		8.3	5.8	16.0	26.5	9.4
	個人				4,0		
用具の管理・準備・後始末	学級						
	グループ		6.7		4.0	0.8	3.1
	個人		0.4			0.8	

4．指導段階と学習段階にみられる働きかける対象と活動する単位の活動量の変化

指導と学習の過程における活動パターンを指導者の場合には，それぞれの活動が学級全体を対象にした時・グループを対象にした時・個人を対象にした時に，どのようなパターンであるのか，また，学習者の場合には，それぞれの活動が学級全体を単位にした時・グループを単位にした時・個人を単位にした時にどのようなパターンであるのかについてみたものが，表8と表9である。

表5と表6でみたのと同じように，指導段階と学習段階のともに活動の対象や単位が，学級全体・グループ・個人のいずれであっても，増加型・減少型・平行型・凸型・凹型の5つのタイプがあることがわかる。

この5つのタイプに，指導者と学習者の継続的活動と単発的活動を区別し，さらに，活動する対象や単位である学級全体・グループ・個人とに区別してまとめなおしたものが，表10である。

指導と学習の過程における代表的な活動パターンを挙げてみると，指導者は，単元の進行に伴って学級全体を対象にして観察活動が減少し，グループを対象にした観察活動が増加している。また，学級全体を対象にした指示・誘導・管理の活動が減少し，グループを

表10　指導と学習の過程における指導対象や学習単位からみた活動パターンの類型

類型	区分／種類	指導者		学習者	
		継続的活動	単発的活動	継続的活動	単発的活動
増加型	学級				
	グループ	•観察	•暗示・発問 •教授・説明・示範	•ゲーム・プレイ・発表 •技能練習	•技能練習 •話をきく・質疑応答
	個人				•話をきく・質疑応答
減少型	学級	•観察 •指示・誘導・管理	•観察 •指示・誘導・管理		•話し合い・補助・教え合い •待機・移動・集合・整列
	グループ			•計画・資料研究 •話し合い・補助・教え合い	
	個人				•ゲーム・プレイ・発表 •待機・移動・集合・整列
平行型	学級		•記録・測定		•準備・整理・補強運動
	グループ		•参加・補助		•話し合い・補助・教え合い
	個人	•記録・測定 •指示・誘導・管理	•記録・測定	•記録・測定 •用具の管理・準備・後始末	
凸型	学級	•暗示・発問		•記録・測定　•技能練習 •待機・移動・集合・整別	
	グループ	•参加・補助　•暗示・発問 •教授・説明・示範 •指示・誘導・管理	•観察 •指示・誘導・管理	•話をきく・質疑応答 •待機・移動・集合・整列 •用具の管理・準備・後始末	•記録・測定 •待機・移動・集合・整列
	個人		•暗示・発問　•教授・説明・示範　•指示・誘導・管理	•技能練習	•用具の管理・準備・後始末
凹型	学級	•教授・説明・示範	•暗示・発問 •教授・説明・示範	•準備・整理・補強運動 •話を聞く・質疑応答	•話を聞く・質疑応答
	グループ			•準備・整理・補強運動	•用具の管理・準備・後始末
	個人				

対象にしたその活動が増加している。さらに，学級全体を対象にした教授・説明・示範は，「はじめ（導入）」の段階と「まとめ（整理）」の段階に多く，「なか（展開）」の段階では，グループを対象にした活動が中心である。

学習者は，活動の中心がグループを単位としたものがほとんどである。単元の進行に伴って，計画・資料研究や話し合い・補助・教え合いの活動が減少し，技能練習とゲーム・プレイ・発表や記録・測定などの活動が増加している。また，「なか（展開）」の段階で増加したり，減少したりする活動は，指導者の活動との関係をみると，その関係は対応関係を示している。

V　研究のまとめ

体育の授業において，学習者に運動を学ばせ，学習者の主体性や自律性を育成するためには，指導や学習の過程がどのような活動パターンをもっており，基本的な授業の活動パターンがどうあればよいかについて検討をしてきた。その結果をまとめると，次のとおりである。

(1)　指導者と学習者の活動には，中心的活動と周辺的活動とがある。中心的活動は，指導者の観察と教授・説明・示範と，学習者の技能練習，記録・測定，準備・整理・補強運

動，話を聞く・質疑応答，話し合い・補助・教え合いなどである。

(2) 指導者の働きかける対象や学習者の活動する単位は，学級全体・グループ・個人のすべてにみられるが，その中心はグループである。

(3) 指導と学習の過程における活動パターンは，図1のように，増加型・減少型・平行型・凸型・凹型の5つのタイプに類型化できる。

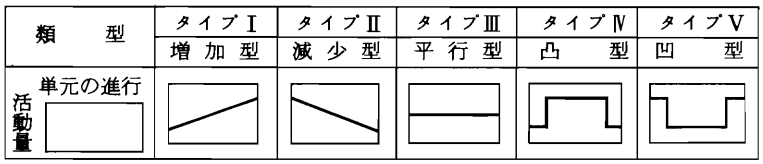

図1　体育の指導と学習の過程における活動パターンの類型

(4) 指導と学習の過程における基本的な活動パターンは，図2のように模式図化できる。

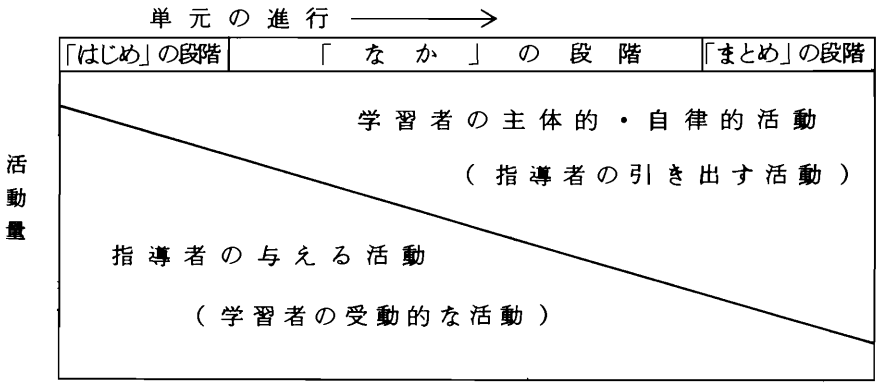

図2　体育の指導と学習の過程における基本的な活動パターン

つまり，体育の授業においては，単元の展開当初は学習者の学習の見通しが充分ではないので，指導者の与える活動や学習者の受動的な活動が多いが，単元の進行に伴って学習のねらいが明確にたってくるために，学習者の主体的・自律的活動や指導者の引き出す活動多くなるといえる。

脚注及び引用・参考文献

(1) 竹之下休蔵他，(1965)，「体育の学習指導研究の手びき」光文書院　pp. 186－188。

(2) 体育教材研究会，(1979)，「小学校体育の教材研究」，大修館書店，p. 259

(3) 永田靖章，(1978)，「体育の学習指導過程と学習過程に関する研究」，愛知教育大学教科教育センター研究報告第2号　p. 175

(4) 永田靖章，(1979)，「体育の指導・学習過程に及ぼす指導・学習形態の影響に関する研究」，愛知教育大学教科教育センター研究報告第3号　p. 167。

(5) 継続的活動とは，指導者や学習者の活動を時間的にとらえ，1分間以上の同一の活動を継続している場合に用いた用語である。

(6) 単発的活動とは，指導者や学習者の活動を頻度でとらえ，1分間未満の短時間に同一の活動を行っている場合に用いた用語である。